

2023 年度 小委員会活動成果報告

(2024 年 2 月 5 日作成)

小委員会名	木質耐力壁構造性能評価法小委員会	主 査 名：榎本敬大 就任年月：2022 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (木質構造運営委員会)	委員長名：五十田博 (主 査 名：腰原幹雄)
設 置 期 間	2022 年 4 月 ～ 2026 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>2021 年度までに「木質耐力壁構造 Q&A」(2011 年 8 月刊)の改訂版の原案を作成した「木質耐力壁構造 Q&A 改訂委員会」を引き継ぎ、内外の内容確認・調整を行って出版することを設置期間前半の目標とする。</p> <p>その後、木質構造の中層化や大規模化や自然災害への高度な抵抗力などのニーズにより整備、蓄積された様々な技術的知見を再整理し、既往の技術的知見を合わせて木質系耐力壁形式構造に関する設計思想や設計方針、及び具体的な設計方法を体系的に整理するための足がかりを得ることを目的とする。</p> <p>初年度:前身の委員会で作成された木質耐力壁構造 Q&A 改訂版の原案について、上位委員会等の査読を受け、査読対応を行い、出版準備を行う。</p> <p>2 年度:改訂版「木質耐力壁構造 Q&A」の正誤や質疑等の対応を行い、木質耐力壁構造の設計法に関する現状の問題点や技術的な課題等を収集する。</p> <p>3 年度:木質耐力壁構造の設計法に関する現状の問題点や技術的な課題等について、対応方針や必要な技術開発等について今後の検討方針を整理する。</p> <p>4 年度:木質耐力壁構造の設計法について体系的に整理する上で必要な技術的知見等について整理し、今後の技術開発の促進に必要な事項を整理する。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：なし</p> <p>主査：榎本敬大 (建築研究所) 幹事：杉本健一 (森林総合研究所)、梶川久光 (明治大学) 委員：小川 春彦 (ミサワホーム総合研究所)、山崎 義弘 (東京工業大学)、青木 謙治 (東京大学)、藤野 栄一 (職業能力開発大学校)、岡本 滋史 (大阪公立大学)、後藤 隆洋 (日本住宅・木材技術センター)、林崎 正伸 (建材試験センター)、大橋 修 (三井ホームコンポーネント)、大浦和香子 (ポラス暮らし科学研究所)、津田 千尋 (ベターリビング)、高岡 繭子 (フリーランス)、落合 陽 (東京都市大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	木質系耐力壁の性能分析 WG：「木質耐力壁構造 Q&A」の改訂版の原案の査読対応と出版準備に対して支援を行う。また、木質耐力壁構造の設計法や耐力壁の構造性能に関する現状の問題点や技術的な課題等を収集する。	
2023 年度予算	70,000 円	ホームページ公開の有無：なし 委員会 HP アドレス：

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	7 回 (年度内計画を含む)
刊行物	なし
講習会	なし
催し物	なし
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> 木質耐力壁構造 Q&A 改訂版の原案を執筆し、委員会内で読み合わせ、相互査読、チェックを行って同書改訂案を完成させた。 木質耐力壁構造 Q&A 改訂版の木質構造運営委員会内での査読を行い、同書改訂案を修正した。修正改訂案について、構造委員会査読を開始した。
委員会活動の問題点・課題	<ol style="list-style-type: none"> 記述内容の詳細について討議を行うには対面会議が適していると考えられるものの、コロナ禍が終わってもリモート会議の方が時間的にも融通が利き、なかなか全員が揃って議論、意思統一をはかることが難しかった。 Web 会議参加者が多く、当初見込んでいた旅費の消化ができなかった。